

DX 実現のための ICT 力強化
～地区で高め合う ICT 利活用力～

1 はじめに

GIGA スクール構想が文部科学省から提唱されて4年が経過した。各学校で一人一台の端末が導入され、授業スタイルや宿題の内容、学校生活全般が大きく変化した。今ではタブレットのある光景が当たり前になりつつあるが、それを実現するまでには多くの教員が努力し、工夫を重ねてきた。本校に限らず、どの学校でも同じだが、各学校の個別の取り組みにより ICT 活用の進展度に差が生じている。情報活用能力は将来社会で必須のスキルだが、それは実際に活用する機会がなければ育たない。この差が子どもたちの能力の違いを生むのは避けたい。

また、現代社会ではデジタルトランスフォーメーション (DX) の推進が急務であり、ICT 活用の重要性が高まっている。地域全体のデジタル対応力を向上させるためにも、教育現場における ICT 活用が鍵を握る。学校での ICT 利活用は、地域全体の DX 推進に寄与すると期待されるが、現状では学校間の ICT 活用の差や地域支援の不均衡といった課題がある。こうした問題を解決し、地域全体で ICT 活用を成長させ、子どもたちが必要な能力を身につけられるよう、ICT 利活用推進事業を進め、その実践をまとめた。

2 研究の経過

(1) 地域の小中学校訪問

5月11日～6月23日までに、揖龍地区中学校6校と、小学校4校を訪問した。各校の授業の様子を見学し、その後 ICT 担当者に ICT についてのインタビューを行った。

(2) 公開授業・公開講座

	公開授業・講座日程	公開授業教科	公開講座
1	6月13日(火)	英語	龍野東中学校 ICT の現状
	8月7日(月)	—	みんなが使える ICT を目指して
2	10月2日(月)	数学	ICT を用いた学級経営
3	10月24日(火)	技術・保健体育	Qubena (AI ドリル) について
4	11月2日(木)	社会	愛知県春日井市 ICT 視察報告

5	12月8日(金)	理科	ICTを用いた授業
6	1月16日(火)	家庭科・音楽	ICTの小中連携
7	2月5日(月)	国語(特別支援学級)	ICTを用いたテストの進め方

3 研究内容

(1) 地域の小中学校訪問

多くの学校でペーパーレス職員会議、情報共有のICT化、ポータルサイトでの情報集約、集会時のGoogle Meet化、生徒会での活用が取り組まれていた。しかし、生徒が自由に使えるか、授業での教員・生徒の使用率という点で進んでいる学校が少なかった。ICTを進める上で困っていることについて、どの学校でも生徒たちが不適切な使用、環境の不備、教師間の差があった。そこから、ICT利活用推進事業を、「更に生徒が思うようにタブレットを使用できる環境を本校内に整えること」と、「本校の取組を周知し、地域の学校全体のICTの推進を促すこと」の2つのテーマに則って進めることにした。

(2) 公開授業・公開講座

毎年校内で行われる研究授業を、学習指導委員会と協力し、今年度はICTを用いた授業に特化して取り組んだ。その授業を、地域の学校に公開した。また、その後に公開講座を企画し、地域全体のICT利活用力向上に努めた。以下は公開授業の内容とICT利活用のポイントである。

① 英語科(中学2年生)

グループでの共同編集により、生徒が意見を出し合いながら対話を深め、協力的に学べる環境を提供。電子黒板を活用した発表練習で、実践的なプレゼンテーションスキルを高める。さらに、ICTツールを利用して英文を入力し、内容を考え表現を深める過程で、思考力や表現力を養う。

② 数学科(中学1年生)

デジタル教科書を活用することで、生徒が自分のペースで学習を進められる環境を提供し、学びを個別化する。動画を活用して抽象的な数学的概念を視覚的に具体化し、理解を深める支援を行う。また、ICTを用いた個別指導により、生徒の理解度に応じた柔軟なサポートを実現する。

③ 技術科(中学2年生)

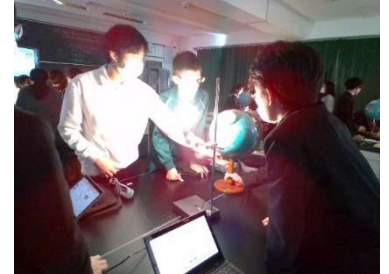
Google Chatやスプレッドシートを使用し、生徒同士で進捗状況を共有して学習の効率を高める。クラウドツールを活用して、リアルタイムでの意見交換や共同作業を可能にし、生徒間の距離があっても協働学習を促進。ICTで効率的な学びを支援する。

④ 社会科（中学2・3年生）

Google Jamboard を活用して、グループで情報を整理・共有し、相互参照を通じて学びを深める。他のグループと情報を共有することで、多様な視点を取り入れた学習を実現。Google Chat を利用して疑問解決を図り、協力して学ぶ力を育てる環境を整える。

⑤ 理科（中学2・3年生）

生徒が自分に合った教材を選べる環境を整え、学びの多様性を促進。目標を明確にすることで、生徒が効率的に学習を進めやすくなり、ICT を活用した柔軟な学びをサポートする。個別に適応した取り組みで、効果的な学習環境を提供する。



⑥ 家庭科(中学3年生)

スプレッドシートを活用し、生徒同士で進捗状況や課題を共有することで学習状況を把握しやすくする。ICT ツールにより、学習スタイルや進度に応じた個別対応を実現し、生徒一人ひとりの学びを効果的に支援。個性を尊重した学びを促進する。



⑦ 音楽科（中学3年生） - 創作

スプレッドシートで進捗を共有し、学習状況を把握することで、生徒と教師が効率的に連携できる環境を整備。Google Classroom を活用して授業の流れを提示し、計画的に学習を進める支援を行う。イヤホンやタッチペンなどで学びの多様性にも対応する。

⑧ 国語科（特別支援学級・弱視学級）

音声入力機能を活用し、自分の話した内容をテキスト化して確認することで、どんなことを話しているかを客観的に分析しやすくする。過去の学びと比較することで成長を実感し、メタ認知を高める学習を実現。ICT を活用した柔軟な支援を行う。

また、ICT を進めるときに、不安の声が必ず上がる。その声を少しでも減らすために、本校職員には現在の ICT について知る機会にし、周囲の学校の教員には ICT 促進の機会になることを心掛けて企画した。

①第一回 龍野東中学校 ICT の現状

令和3年度の取組を中心に、本校の ICT 現状を報告した。これにより、転任者には本校の様子が伝わり、周囲の学校の教員には今年度の ICT 促進の機会を作った。

②第二回 みんなが使える ICT を目指して

（ア）タブレットを使うこと・使わせること・ICT の重要性、（イ）児童生徒の健康に留意した ICT 活用、（ウ）校内研修プログラム、（エ）情報担当者向け講座、（オ）小学校・中学校を見学して の5種類の講座を行った。

③第三回 ICTを用いた学級経営

委員決めやデジタル連絡帳など、学級経営に使えるものを紹介。

④第四回 Qubena (AIドリル) について

本校が扱っているAIドリルについて、株式会社COMPASSに講習を依頼し、機能や操作方法の講習を行った。

⑤第五回 愛知県春日井市 ICT 視察報告

リーディングDX指定校の訪問をし、視察内容を報告。ICTの次の段階の授業の紹介。

⑥第六回 ICTを用いた授業

Google workspaceやデジタル教科書を使った、複線型の授業に移行するまでの順番を紹介。

⑦第七回 ICTの小中連携

ICTという観点で、小学校と中学校の繋がりについて講習。

⑧第八回 ICTを用いたテストの進め方

Google formを使ったテストが現在のスタイルになるまでに話し合った学習指導委員会の内容を紹介。

4 研究のまとめ

教育DXが進む中、授業スタイルも大きく変化している。授業形態を変えることは、教師にとって負担が大きい一方、生徒たちも新しいツールに慣れるまで抵抗を感じるのは自然なことだ。生徒がタブレットを使い、学習に向き合えるようになるには時間が必要である。どんなに優れた道具でも、使い方を知らなければ十分に活用できない。だからこそ、私たち教師がまず積極的にICTを活用し、その姿を示すことが重要な役割だと考える。

この研究を通じて、教師や生徒の意識に大きな変化があったと感じている。たとえば、1年前はChromebookの操作方法を頻繁に質問していた教師が、今ではChromebookが業務に欠かせない存在となっている。今や、どの教師にとってもChromebookを使うのは当たり前のことである。また、生徒もChromebookを学習の一環として自然に取り入れている。授業中にはGoogle Classroomを開き、授業内容や必要な資料を確認し、自習時間にはAIドリルを活用する姿が見られるようになった。教師が意識してICT活用の機会を提供してきた結果、本校の生徒にとってChromebookは「学習ツールの1つ」として定着している。

令和6年度に入り、ICT利活用推進事業の任が終わったものの、「タブレットの持ち帰りが自由になった」「Googleスプレッドシートで進捗シートを作った」「AIドリルの活用が進んでいる」といった声が地域内から聞かれ、ICT活用がさらに進展していることを実感している。

今後は、ICTを最適に活用する段階に入る。必要なツールを自分たちで選び、効果的に使いこなす力を育てるために、学校や地域全体で取り組みを深めていきたい。